

今週の T2 経済レポート



2024 年 5 月 31 日号

■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来ですと急落調整の週が予想されます。今週(5/27~5/31)の相場を占う『RU-RD 指標』の 5 月 17 日週は-8.2%と、3 週間ぶりにマイナス圏に陥ったことで、本来ですと急落調整が予想されます。さらに、来週(6/3~6/7)の相場を占う 5 月 24 日週は-6.0%と、2 週連続マイナス圏に陥ったことで、本来ですと軟調相場が予想されます。2 週連続マイナス圏は、4 月 19 日週~26 日週の 2 週連続マイナス圏以来、4 週間振り。前回の 2 週連続マイナスは日経平均が史上最高値となった 3 月 22 日高値 41087 円から 4 月 19 日安値 36733 円まで約 10%下落するボトム形成に表れましたが、今回はどのような相場を暗示しているのでしょうか。先週、『「円売り投機筋ポジション」も 4 月 26 日週-179919 枚→5 月 17 日週-126182 枚と、07 年のリーマンショック直前に並ぶ過去最高水準からは約 30%急減、「円売り」の巻き戻しも起きています。』と指摘しましたが、先週 5 月 24 日週は-144367 枚と目先ボトムとなった前の週比+14%と一旦、再拡大し、円安に振られています。ただ、今回のように過去最高レベルの「円売り投機筋ポジション」が積み上がった 2007 年を振り返ると、07 年 6 月 25 日週-188077 枚→08 年 3 月 24 日週+65900 枚と「円売り」から「円買い」に転換する過程で、ドル円も 07 年 6 月 11 日週 123 円→08 年 3 月 24 日週 99 円まで約 24 円幅、約 19%の円高となっています。当ても「円キャリートレード」の巻き戻しが起きたわけですが、今回も約 20 兆ドルに積み上がっていると云われる「円キャリートレード」の巻き戻しが起きるかが注目されます。

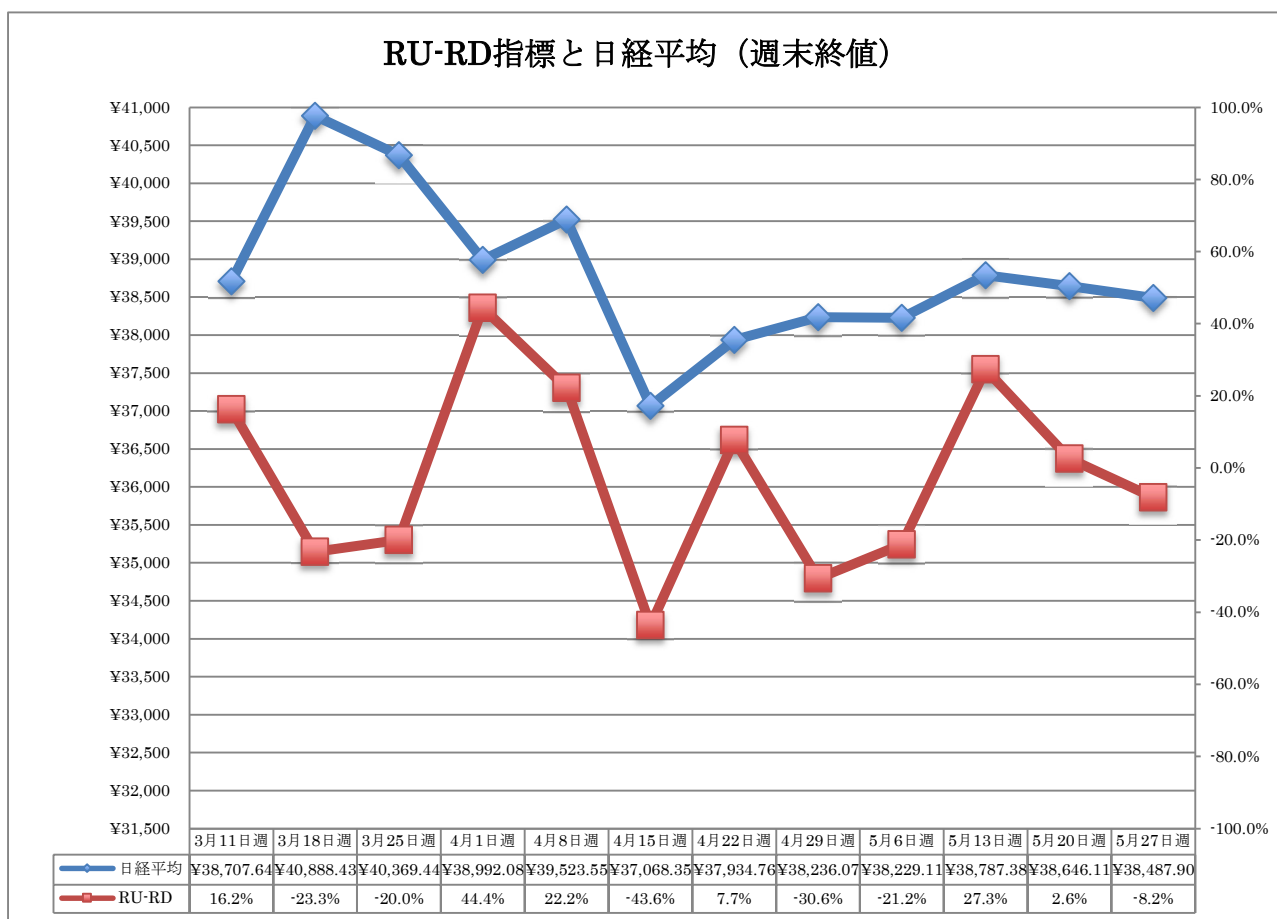
先週の相場で注目すべきポイントは、NY ダウが 23 日に前日比-605ドル安の 3 万 9065ドルと、23 年 2 月 21 日(-697ドル安)以来、約 1 年 3 カ月ぶりに 1 日で 600ドルを超える今年最大の下げ幅を記録したことです。その前の週である 24 年 5 月 17 日週に NY ダウは過去最高値を更新し、史上初めて終値で 4 万ドルの大台を突破した反動安が表れたかたちですが、前回 600ドル超下落した 23 年 2 月 21 日を振り返ると、NY ダウは 23 年 2 月 17 日週高値 34331ドル→3 月 17 日週 31429ドルまで約 8%下落するシグナルとなっています。先週、『先週(5 月 10 日週)、「T2 理論の

「上値目標値+2%乖離」だった 38771ドルを僅か 32ドルですが超えています。先週、『日経平均は T2 理論の「上値目標値+2%乖離」である 38598 円を僅か 9 円超えました。極々僅かですが、これで日経平均は 4 月 5 日週と 4 月 19 日の 2 週に表れた T2 理論の「下値目標値-2%乖離」に対するリバウンド終了を示唆したかたちですが、連動性の高い NY ダウの方は T2 理論の「下値目標値-2%乖離」が 4 月 5 日週と 4 月 19 日の 2 週に表れた後、T2 理論の「上値目標値+2%乖離」はまだ表れておらず、現在がリバウンド過程にあることとなります。NY ダウの「上値目標値+2%乖離」が表れると日米株価はともにリバウンドが終了し、再度の急落調整に備える必要があるため要注目です。』と指摘しましたが、これで日経平均、NY ダウともに極々僅かですが、T2 理論の「上値目標値+2%乖離」を超え、リバウンド終了のサインが表れたかたちです。』と指摘し、この T2 理論「上値目標値+2%乖離」のリバウンド終了サインも NY ダウの急落調整に表れたかたちです。

一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」「売り(レーティング 3 と 4)」「銘柄比率」が 24 年 4 月 5 日週+35.7%→4 月 12 日週+31.4%→4 月 19 日週+21.4%→4 月 26 日週+10.0%→5 月 3 日週+22.9%→5 月 10 日週+28.6%→5 月 17 日週+14.3%→5 月 24 日週+15.7%と、実質 24 週連続プラス圏、ただ「+40%超の上限ゾーン」を 8 週連続で割り込んでいます。また、本来の天井圏・底値圏を示唆する同指標の「移動平均ベース」は、24 年 4 月 5 日週+39.8%→4 月 12 日週+37.4%→4 月 19 日週+34.8%→4 月 26 日週+32.1%→5 月 3 日週+29.0%→5 月 10 日週+25.0%→5 月 17 日週+21.4%→5 月 24 日週+18.8%と、26 週連続プラス圏、「+40%超の上限ゾーン」を 8 週連続で割り込んでいますが、両指標がマイナス圏に陥ると本格的な下落局面入りを示唆することになり要注目です。一方、日経平均の「T2 レーティング」は、4 月 15 日週以降、6 週連続の「売りレーティング」で、前回、6 週連続以上の「売りレーティング」だったのは 22 年 8 月 29 日週～22 年 10 月 10 日の 7 週連続以来。当時の日経平均は 22 年 8 月 19 日週高値 29222 円→22 年 10 月 7 日週安値 25621 円まで約 12%下落した局面に表れています。ただ、当時と異なる点は、NY ダウの「T2 レーティング」が 22 年 8 月 29 日週～12 月 19 日週まで 17 日週連続で「売りレーティング」でしたが、今回は前述のとおり、4 月 8 日週以降、4 週連続の「売りレーティング」後、5 月 10 日週からは 3 週連続で「買いレーティング」に転換していることです。

今週は、経済指標では、国内は、5 月 27 日に 3 月景気動向指数(確報値)、28 日に 4 月企業向けサービス価格指数、29 日に 5 月消費者態度指数、31 日に 5 月東京消費者物価指数(CPI)、4 月失業率、鉱工業生産(速報値)、住宅着工件数、海外では、27 日に独・5 月 IFO 企業景況感指数、28 日に豪・4 月小売売上高、米・3 月 S&P/コアロジック CS20 都市住宅価格指数、5 月コンファレンスボード消費者信頼感指数、29 日に豪・4 月 CPI、独・6 月 GFK 消費者信頼感調査、5 月 CPI(速報)、米・5 月リッチモンド連銀製造業指数、30 日に欧・5 月ユーロ圏景況感指数、4 月ユーロ圏失業率、米・前週分新規失業保険申請件数、1-3 月 GDP(改定値)、4 月卸売在庫(速報

値)、4月中古住宅販売成約指数、週次原油在庫、31日に中・5月製造業／サービス業PMI、欧・5月ユーロ圏CPI(速報値)、米・4月個人所得、PCEデフレーター、5月シカゴ購買部協会景気指数などの発表が予定されています。5月31日発表の米4月コアPCE価格指数は前年比+2.8%と、3月コアPCE価格指数は前年比+2.8%から変わらずの見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、5月27日に植田日本銀行総裁が日銀金融研究所主催2024年国際コンファランスで開会あいさつ、内田日銀副総裁が同コンファランスで基調講演、29日に安達日銀審議委員が熊本県金融経済懇談会で講演、同記者会見、海外は、5月27日に米英・株式市場は祝日のため休場、28日に米・クリーブランド連銀総裁が日銀主催のイベントで講演、米・ミネアポリス連銀総裁がフォーラムでスピーチ、29日に米・ニューヨーク連銀総裁が討論会に参加、南ア・総選挙、30日に米・ニューヨーク連銀総裁が講演、米・ダラス連銀総裁が講演、などです。」とコメントしました。



5月6日週	5月13日週	5月20日週	5月27日週
¥38,229.11	¥38,787.38	¥38,646.11	¥38,487.90
-21.2%	27.3%	2.6%	-8.2%

先週の日経平均は、高値 39141 円(5 月 29 日)・安値 37617 円(5 月 30 日)と推移、2 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、日本銀行による金融政策の早期正常化が意識されるなか長期金利の指標となる新発 10 年国債利回りが 1.100%まで上昇、NY ダウが米国も 10 年国債利回りは約 1 カ月ぶりに 4.6%台まで上昇したほか、構成銘柄のセールスフォースなどの急落も影響し、5 月 20 日につけた終値ベースの史上最高値 40003 ドルから約 2 週間で一時 5%ほど下落したことが重しとなり、下げ幅は一時 900 円を超えて 5 月 13 日以来、約 2 週間ぶりに 38000 円大台を割れて、僅か-64 円ですが下値目標値を下回りましたが、週末に「政府が公務員年金など 100 兆円規模の公的マネーを積極運用に回す」と報じられたことで大幅反発、週間ベースでは-159 円安まで下落幅は縮小しましたが 2 週続落で終了、また以前からお伝えしているように、週間ベースで 2 週前に表れた-7 円安は 10 円以内の極めて珍しい先週差となりましたが、前回それが起きたのは 23 年 7 月 10 日週+3 円と約 10 か月振りで、当時、日経平均は 23 年 7 月 7 日週高値 33762 円から 8 月 18 日安値 31275 円まで約 7%下落、その前が 21 年 12 月 27 日週 9 円で、日経平均は 21 年 12 月高値 29121 円から 3 月安値 24638 円まで約 15%下落と、急落のシグナルとなっています(先週予告していた上値メド 39347 円~40133 円(+2%かい離)//下値メド 38450 円~37681 円(-2%かい離))。日経平均の『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、逆に 5 月 24 日に 38500 円大台割れで下落スタートとなりましたが、逆に 5 月 29 日に 39000 円大台替えで仕切り直しが入り、またまた逆に 30 日に 38500 円大台割れで下落スタート、同日に 38000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 0 日間、従って、猶予で 31 日までに 37500 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せずに時間切れ。39000 円大台替えで仕切り直し、逆に、37500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、時間切れとなっていました、5 月 20 日に 39000 円大台替えで仕切り直しが入りましたが、逆に 5 月 30 日に 38000 円大台割れで下落スタートとなりました。37000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、39000 円大台替えで仕切り直しが入ります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、4 月までに 36000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に、4 月に 38000 円大谷替えで仕切り直しが入り、5 月に 39000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 ヶ月、従って、6 月までに 40000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に 5 月に 38000 円大台割れで下落スタートとなりました。37000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、39000 円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期→、中期↓、長期↓となり、中期・長期の弱含みは変わりませんが、短期が方向感なしに変化したことで、全体的には下落しやすいながらも、目先は乱高下しやすいかたちに変化しました。多分、強気の投機筋と弱気の投機筋が株価操縦を繰り返しているのではないかと予想されます。日本政府は日経平均を人工的な円安を背景に 34 年振りに史上最高値を更新させ、過度な円安に対して、昭和の日の 4 月 29 日に 1ドル 160 円で、5 月 1 日に 157 円で過去最高 9.7 兆円の為替介入を行っています。日本政府が単独でこのような大きな為替介入を行ったとは思われず、「ドル基軸通貨」維持

のために全て米国の指示で行われている可能性が高そうです。何故ならば、22年10月6.3兆円の為替介入でも米国への資金供給のための為替介入と噂されているためです。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 39028 ドル(5月28日)・安値 38000 ドル(5月30日)と推移、2週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米連邦準備制度理事会(FRB)がこの日公表した地区連銀経済報告(ベージュブック)で、経済活動は前回4月報告時点から「拡大を続けた」と総括、堅調な米景気を受けたインフレの持続で利下げ観測が後退し、10年国債利回りは約1カ月ぶりに4.6%台まで上昇し下値目標値を大きく下回りましたが、米連邦準備制度理事会(FRB)がインフレ指標として注目する米4月個人消費支出(PCE)価格指数がおおむね予想通りでインフレ高進懸念が和らいだほか、急落したセールスフォースも売られすぎとの見方から大きく反発、5月末株価を意識した買い支えもあり一時607ドル高まで上昇、週間ベースは-383ドル安まで下落幅は縮小しましたが2週連続落で、5月20日につけた終値ベースの史上最高値40003ドルから-1317ドル急落して終了しています(先週予告していた上値メド40238ドル~41042ドル(+2%かい離)//下値メド39443ドル~38654ドル(-2%かい離))。NYダウの『大台替えと時間の物理学的法則』では、短期の大台替えで、時間切れとなっていました。5月28日に逆に、39000ドル大台割れで下落スタート、5月29日に38500ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに1日間、従って、30日までに38000ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せず時間切れとなりました。5月31日に強引な株価つり上げにより39000ドル大台替えで仕切り直しが入っています。39500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、38500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、5月24日までに41000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せず時間切れ。41000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、38000ドル大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースでは、4月に38000ドル大台割れで下落スタートとなりましたが、5月に逆に、39000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同月40000ドル大台替えでカウントダウンの上昇入りに0ヶ月、従って、5月までに41000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に5月に39000ドル大台割れで下落スタートとなりました。38000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、40000ドル大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期→、長期↓となり、中期の方向感なし、長期弱含みは変わりませんが、短期が方向感なしから強含みに変化したことで全体と方向感が逆になったことで、目先は上昇も全体的には乱高下しやすいかたちに変化しました。尚、日本株とより連動性の高いNASDAQ指数の「大台替えの法則」は、短期の大台替えで、時間切れとなっていました。5月14日に16500ポイントで仕切り直しが入り、28日に17000ポイントでカウントダウンの上昇局面入りに14日間、従って、6月11日までに17500ポイント大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に5月31日に16500ポイント大台割れで下落スタートとなりました。16000ポイント大台割れでカウントダウンの下落局面、17000ポイント大台替えで仕切り直しが入ります。中期の方向を示す月ベースでは、時間切れとなっていました。5月28日に17000ポイント大台替

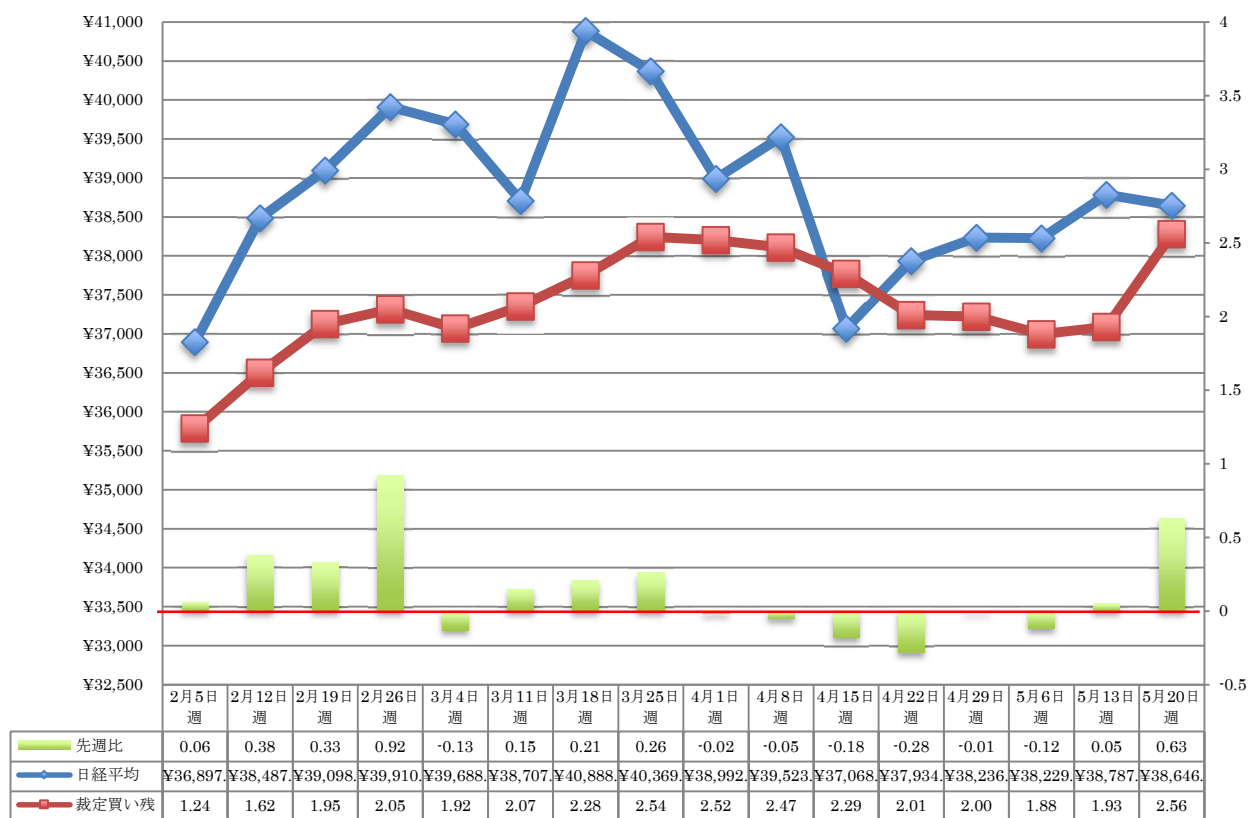
えで仕切り直しが入りました。18000 ポイント大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、16000 ポイント大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースでは、時間切れとなっていました。5月に17000 ポイント大台替えて仕切り直しが入りました。18000 ポイント大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、16000 ポイント大台割れで下落スタートとなります。これで短期↓、中期↑、長期↑と、中期・長期の強含みは変わりませんが、短期が強含みから弱含みに変化したことで、目先は下落しやすいながらも全体的に上昇しやすく乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が157.77円～156.36円(先週予告していた上値メド157.82円～159.39円(+1%かい離)//下値メド155.14円～153.58円(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが、実質3週連続で円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.0888～1.0785(先週予告していた上値メド1.0930～1.1039(+1%かい離)//下値メド1.0830～1.0721(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2週連続でドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、170.79円～169.01円(先週予告していた上値メド171.69円～173.40円(+1%かい離)//下値メド169.40円～167.70円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、3週間振りの円高・ユーロ安。前の週のドル>ユーロ>円からドル>円>ユーロに変化しました。米利下げ開始は9月以降になるとの見方が強まる一方、欧州中央銀行(ECB)は6月に利下げを開始する見込みでユーロ売り・米ドル買い、また日本銀行による金融政策の早期正常化が意識されるかたちで日欧金利差縮小を意識したユーロ売り・円買いが見られた。

<裁定買い残・裁定売り残>

2週連続で増加、5000億円超の増加は23年12月25日週以来、約5ヶ月振りで、直近ピークだった3月29日週2.54兆円を約2ヵ月振りに上回っています。2週前までは6週連続減少、うち3週間は1000億円超の減少で残高も9週間振りに2兆円台を2週連続で割り込んでおり、4月の日経平均急落に利用されましたが、再び、2兆5000億円台を超えたのも「売り崩しの玉(ぎょく)」の積み上げなのかが注目されます。尚、「裁定買い残」が2兆円台にのせた前回の18年10月1日週は2回目のVIXショックが起きた時期で、日経平均は3ヶ月間で約19%の急落となっています。一方、「裁定売り残」は、前の週比-145億円の3378億円と3週連続で減少しています。6週前の4月8日週は1兆5246億円と、2月5日週以来、9週間振りに1兆円の急減で、株価吊り上げに利用されています。そのため、今回は「裁定買い残-裁定売り残」を考慮しておく必要があり、その残高は2兆2240億円とコロナショック以降のピークだった24年2月26日週2.0兆円を上回り、18年9月24日週2.18兆円以来、5年半振りの稀な2兆円台乗せです。前述の通り、これも2回目の「VIXショック」直前に表れており、あらゆる指標がその時期に一致していることは不思議です。

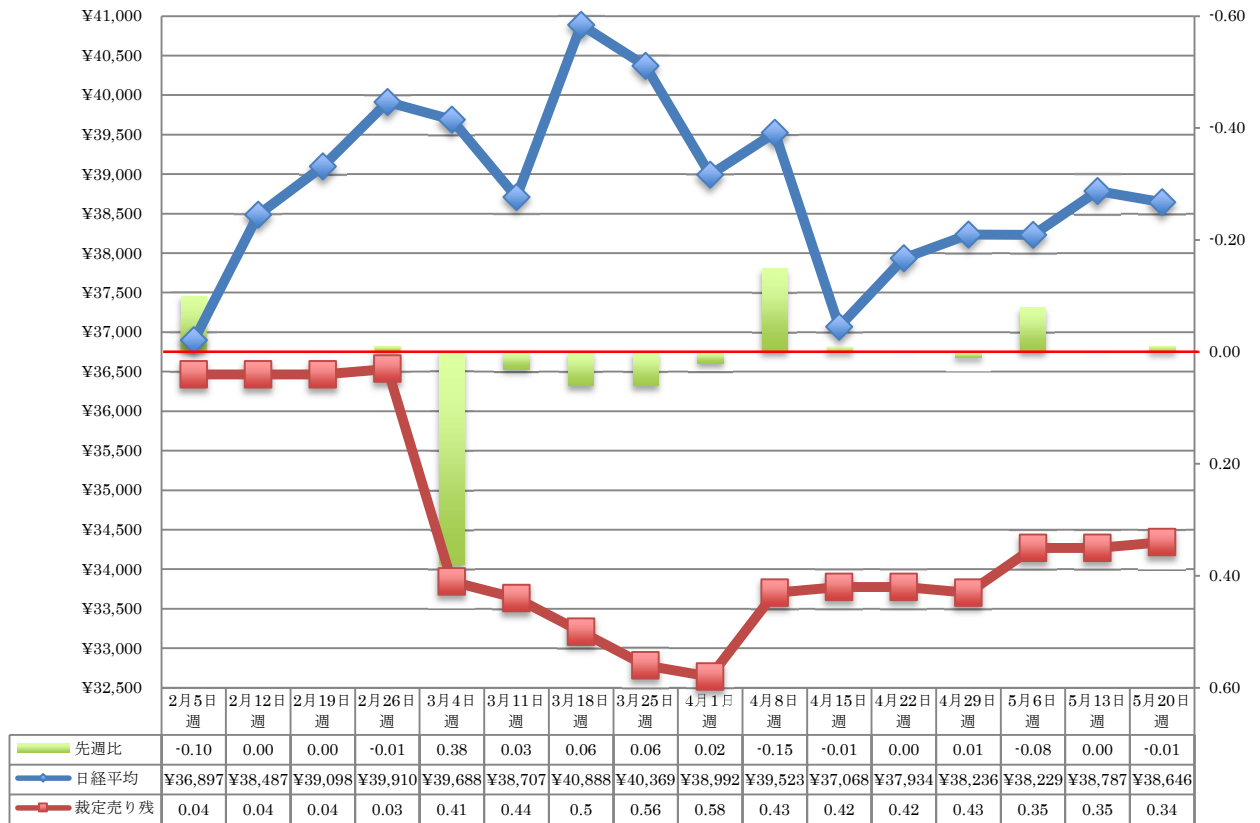
裁定買い残と先週比



4月29日週	5月6日週	5月13日週	5月20日週
¥38,236.07	¥38,229.11	¥38,787.38	¥38,646.11
2	1.88	1.93	2.56
-0.01	-0.12	0.05	0.63

単位:兆円

裁定売り残と先週比



4月29日週	5月6日週	5月13日週	5月20日週
¥38,236.07	¥38,229.11	¥38,787.38	¥38,646.11
0.43	0.35	0.35	0.34
0.01	-0.08	0.00	-0.01

単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来ですと軟調相場が予想されます。今週(6/3~6/7)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月24日週は-6.0%と、2週連続マイナス圏に陥ったことで、本来ですと軟調相場が予想されます。さらに、来週(6/10~6/14)の相場を占う5月24日週は-15.0%と、3週連続マイナス圏に陥ったことで、本来ですと軟調相場継続が予想されます。3週連続マイナス圏は、23年9月15日週~23年10月6日週の4週連続マイナス圏以来、約8か月振り。当時は日経平均が23年9月15日週高値33634円→10月6日週安値30487円まで約-9%の急落調整が起き、『「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が23年9月15日週+47.1%の「+40%の上限ゾーン」から10月6日週-42.9%の「-40%以下の下限ゾーン」まで一気に急落しています。ただ、軟調相場が予想されるなか、先週(5月31日週)、T2理論の「下値目標値-2%乖離」である日経平均38450円を-64円下回り、NYダウ39443ドルを-654ドル下回り、ともに目先は一旦、リバウンドサイン出たかたちです。週末7日の注目される米・5月雇用統計を利用した株価操縦には注意が必要です。尚、先週『これで日経平均、NYダウともに極々僅かですが、T2理論の「上値目標値+2%乖離」を超え、リバウンド終了のサインが表れたかたちです。』と指摘した途端、前の週は急落調整が起きています。

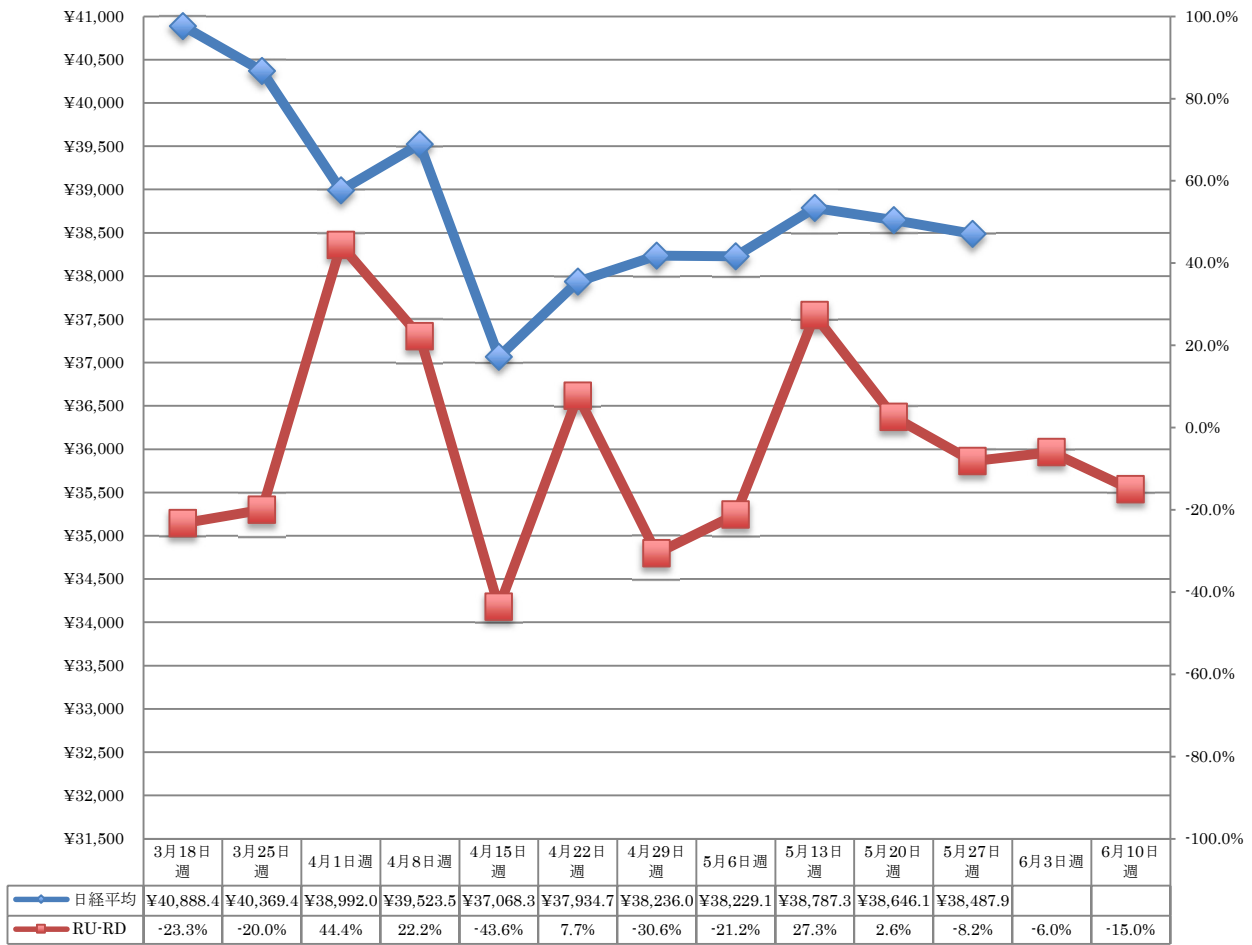
先週の相場で注目すべきポイントは、日本の長期金利が1.1%台まで急上昇したことです。5月30日の債券市場では日本国債を売る動きが強まり、長期金利の代表的な指標である10年物国債の利回りが1.1%をつけ、2011年7月以来、約12年10か月ぶりの高水準に達しました。市場では日銀による国債の買い入れ額の減少や利上げなどの政策変更の観測が広がっていることも長期金利の上昇につながっています。その結果、10年債の日米金利差は5月27日週3.449%と、2011年以降のピークとなった23年10月16日4.078%からは低下していますが、日米金利差と連動するはずのドル円は23年11月6日週151円台のピークからさらに円安が進み、4月22日週158円台と「10年債の日米金利差」とは逆の動きをしています。参考までに、日本の長期金利のT2による6月月足上値目標値は1.28%、2024年年足上値目標値は3.03%と更なる上昇を示唆しています。

一方、日経平均とのほぼ一致指標である『「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が24年4月5日週+35.7%→4月12日週+31.4%→4月19日週+21.4%→4月26日週+10.0%→5月3日週+22.9%→5月10日週+28.6%→5月17日週+14.3%→5月24日週+15.7%→5月31日週+10.0%と、実質25週連続プラス圏、ただ「+40%超の上限ゾーン」を9週連続で割り込んでいます。また、本来の天井圏・底値圏を示唆する同指標の「移動平均ベース」は、24年4月5日週+39.8%→4月12日週+37.4%→4月19日週+34.8%→4月26日週+32.1%→5月3日週+29.0%→5月10日週+25.0%→5月17日週+21.4%→5月24日週

+18.8%→5月31日週+16.9%と、27週連続プラス圏、「+40%超の上限ゾーン」を9週連続で割り込んでいますが、両指標がマイナス圏に陥ると本格的な下落局面入りを示唆することになり要注目です。一方、日経平均の「T2レーティング」は、4月15日週以降、7週連続で「売りレーティング」を継続していますが、前回、7週連続で「売りレーティング」だったのは22年9月2日週～22年10月14日で、当時の日経平均は22年8月19日週高値29222円→22年10月7日週安値25621円まで約12%下落した局面に表れています。ただ、当時と異なる点は、NYダウの「T2レーティング」が22年8月29日週～12月19日週まで17日週連続で「売りレーティング」でしたが、今回は4月12日週～5月3日週の4週連続の「売りレーティング」、5月10日週～5月24日週の3週連続の「買いレーティング」、5月30日週に再び、「売りレーティング」と「買いレーティング」を繰り返していることです。

今週は、経済指標では、国内は、6月3日に1-3月期設備投資、4日に5月マネタリーベース、5日に4月毎月勤労統計、7日に4月景気動向指数(速報値)、海外では、3日に中・5月財新製造業購買担当者景気指数(PMI)、米欧独英仏・5月製造業PMI(改定値)、米・5月ISM製造業景気指数、4日に米・4月JOLTS求人件数、製造業新規受注、耐久財受注(確報値)、5日に豪・1-3月期国内総生産(GDP)、中・5月財新サービス業／総合PMI、米・5月ADP全米雇用報告、サービス業／総合PMI(改定値)、ISM非製造業景気指数、週間原油在庫、6日に欧・欧州中央銀行(ECB)が政策金利発表、米・週次新規失業保険申請件数、4月貿易収支、7日に中・5月貿易収支、欧・1-3月期ユーロ圏GDP(確報値)、米・5月雇用統計、4月卸売在庫(確報値)などが予定されています。6月5日発表の5月ISM非製造業景況指数は51.1と、節目の50を再び上回る見通しですが、仮に、2ヵ月連続で50を下回ると市場には衝撃があるかもしれません。6月7日発表の米5月雇用統計は失業率が3.9%、非農業部門雇用者数は前月比+18.0万人(4月17.5万人)、平均時給は前年比+3.9%(4月+3.9%)の市場観測。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、中村日銀審議委員が札幌市金融経済懇談会で講演、同記者会見、海外は、6月6日に欧・欧州中央銀行(ECB)が政策金利発表、ラガルド総裁が記者会見、英・イングランド銀行(英中央銀行)意思決定者パネル(DMP)調査、などです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



5月20日週	5月27日週	6月3日週	6月10日週
¥38,646.11	¥38,487.90		
2.60%	-8.20%	-6.00%	-15.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 39113 円～39895 円 (+2%かい離)

下値メモ 38091 円～37329 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 38864 ドル～39641 ドル (+2%かい離)

下値メモ 38025 ドル～37264 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 158.90 円～160.48 円 (+1%かい離)

下値メモ 156.43 円～154.86 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.0897～1.1005 (+1%かい離)

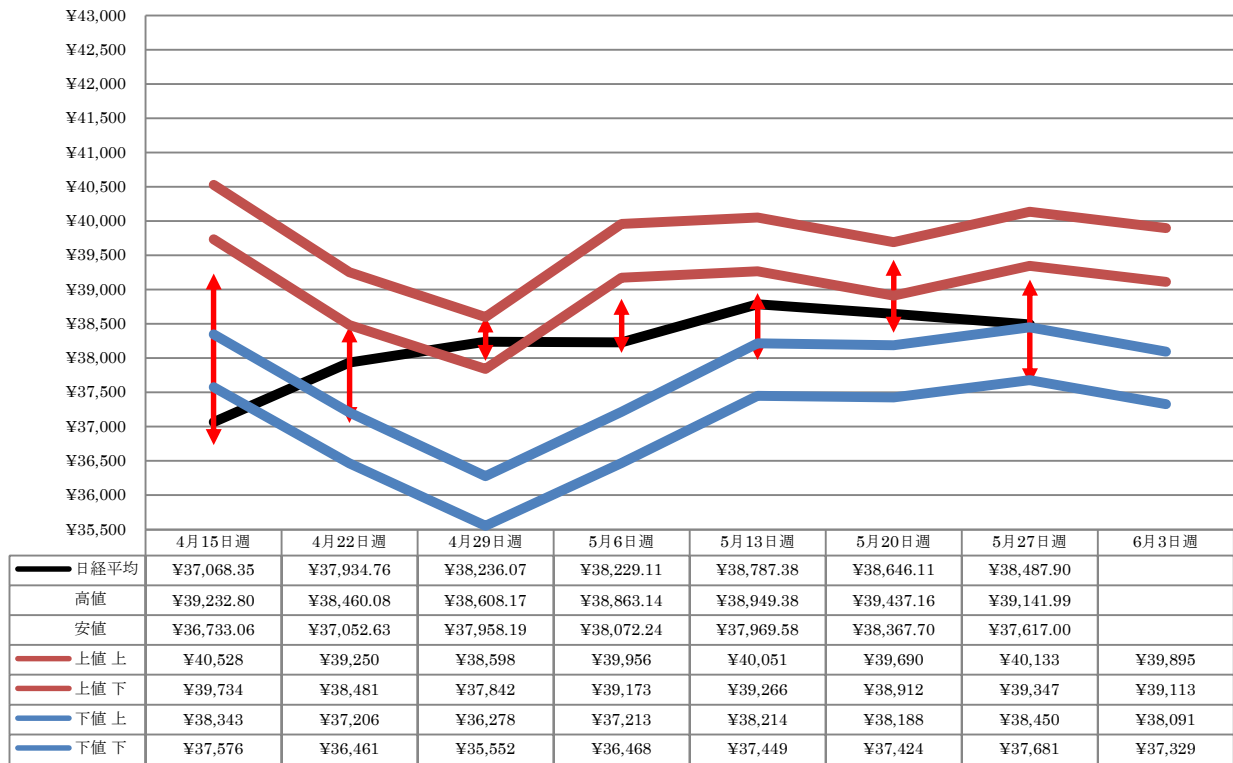
下値メモ 1.0791～1.0683 (-1%かい離)

<ユーロ円>

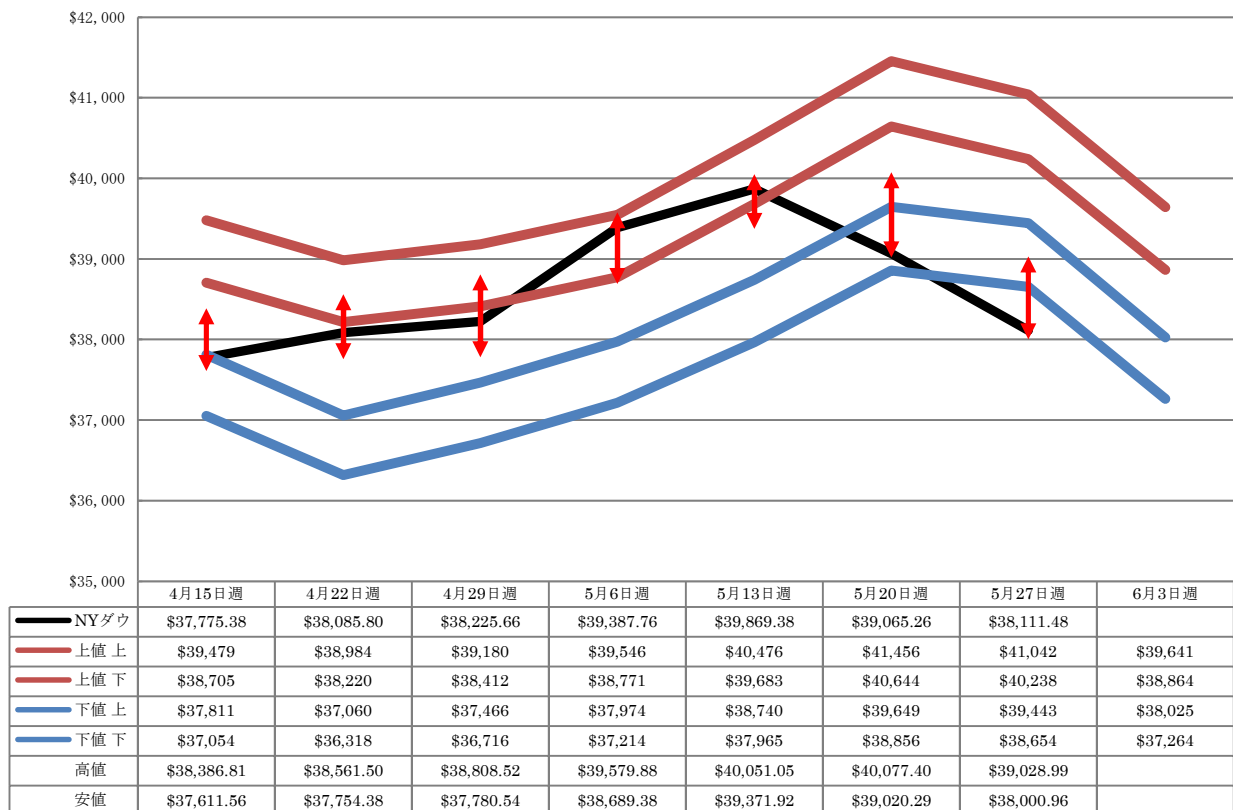
上値メモ 171.52 円～173.23 円 (+1%かい離)

下値メモ 169.70 円～168.00 円 (-1%かい離)

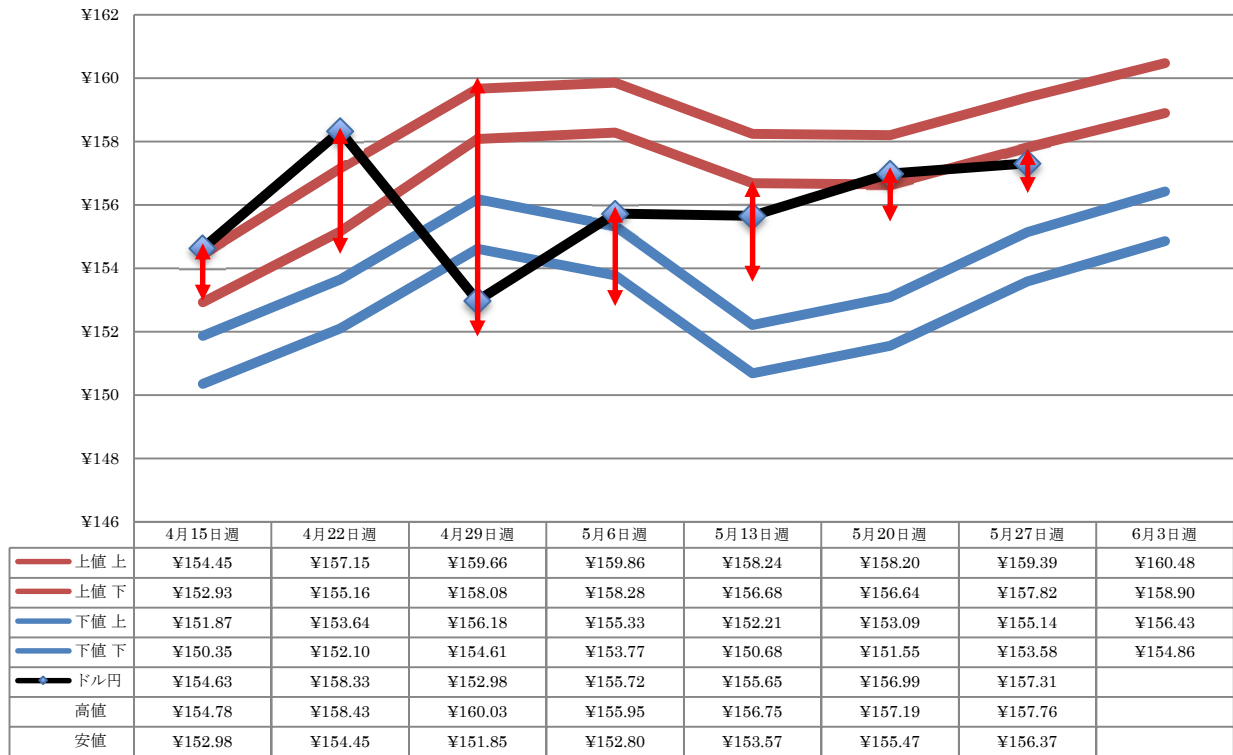
日経平均



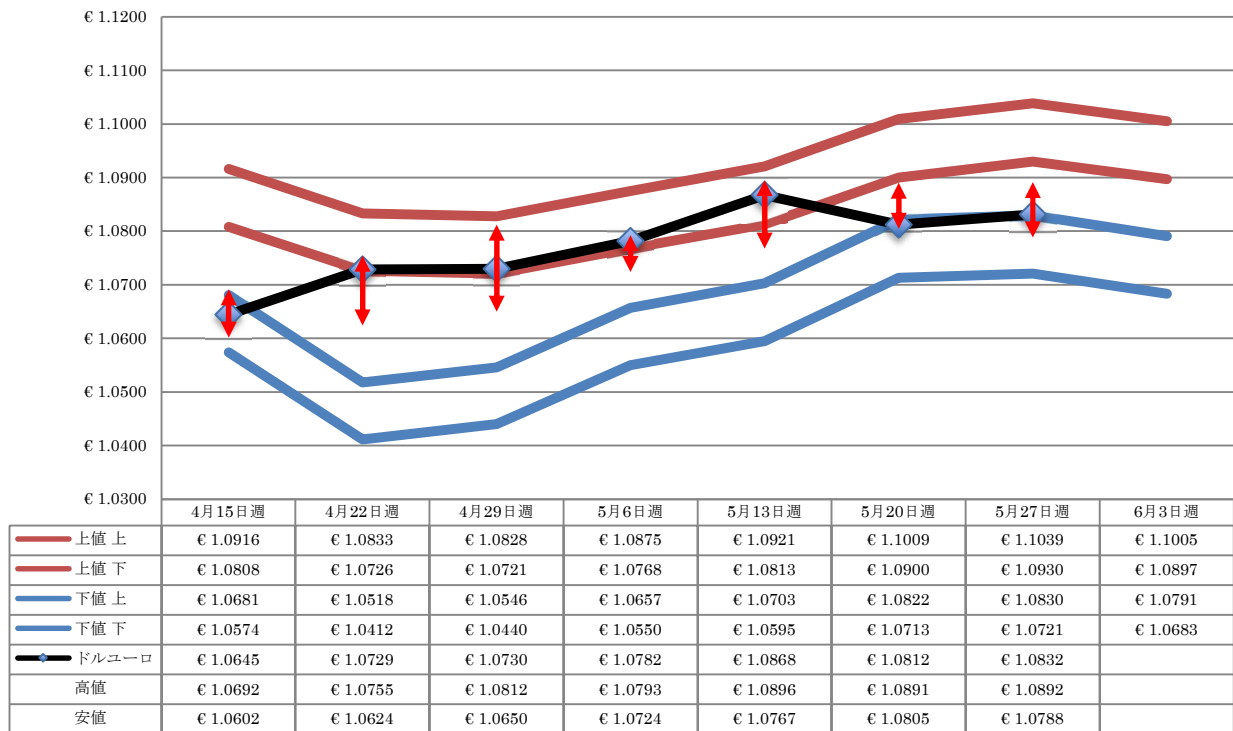
NYダウ

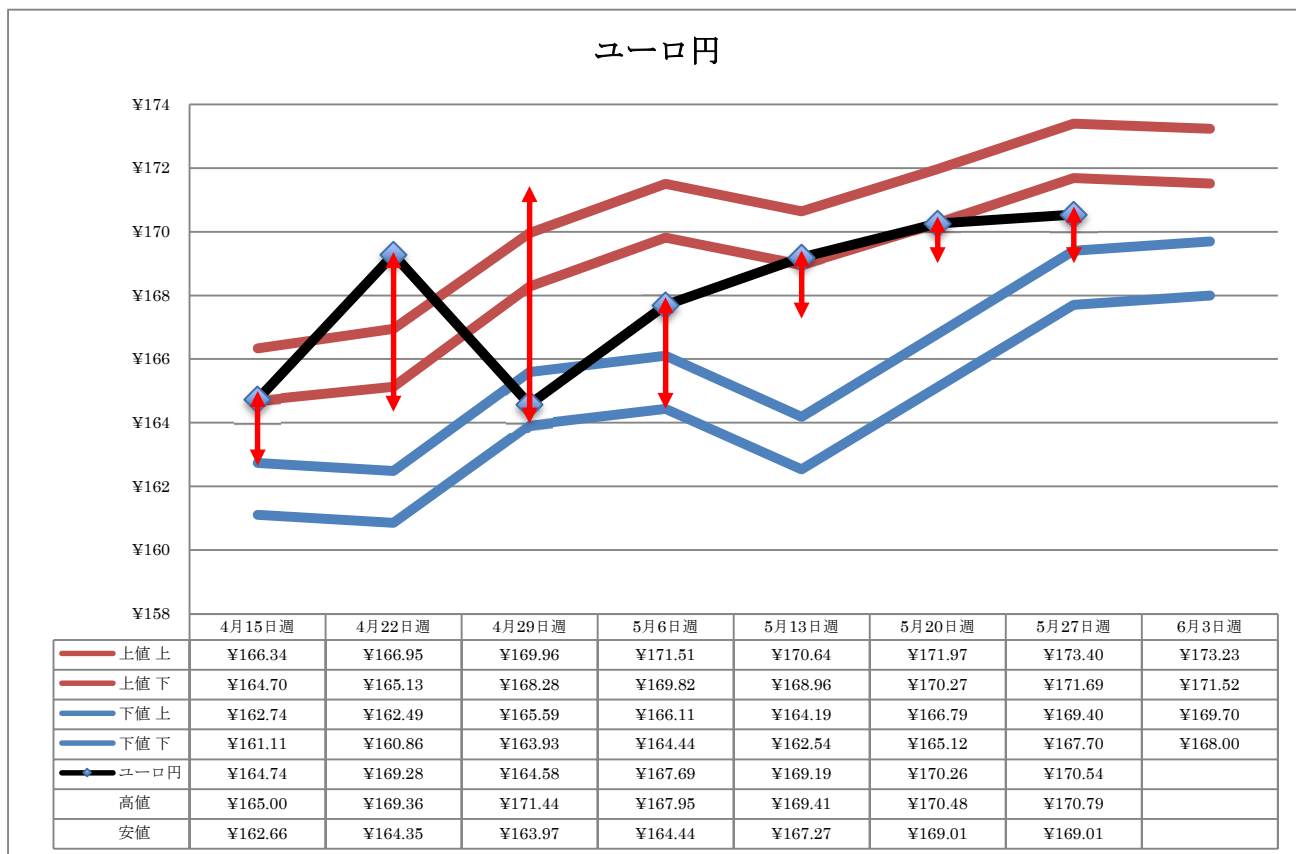


ドル円



ドルユーロ





■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、24年4月5日週+35.7%→4月12日週+31.4%→4月19日週+21.4%→4月26日週+10.0%→5月3日週+22.9%→5月10日週+28.6%→5月17日週+14.3%→5月24日週+15.7%→5月31日週+10.0%と、実質25週連続プラス圏、ただ「+40%超の上限ゾーン」を9週連続で割り込んでいます。また、本来の天井圏・底値圏を示唆する同指標の「移動平均ベース」は、24年4月5日週+39.8%→4月12日週+37.4%→4月19日週+34.8%→4月26日週+32.1%→5月3日週+29.0%→5月10日週+25.0%→5月17日週+21.4%→5月24日週+18.8%→5月31日週+16.9%と、27週連続プラス圏、「+40%超の上限ゾーン」を9週連続で割り込んでいますが、両指標がマイナス圏に陥ると本格的な下落局面入りを示唆することになり要注目です。一方、日経平均の「T2レーティング」は、4月15日週以降、7週連続で「売りレーティング」を継続していますが、前回、7週連続で「売りレーティング」だったのは22年9月2日週～22年10月14日週で、当時の日経平均は22年8月19日週高値29222円→22年10月7日週安値25621円まで約12%下落した局面に表れています。ただ、当時と異なる点は、NYダウの「T2レーティング」が22年8月29日週～12月19日週まで17日週連続で「売りレーティング」でしたが、今回は4月12日週～5月3日週の4週連続の「売りレーティング」、5月10日

週～5月24日週の3週連続の「買いレーティング」、5月30日週に再び、「売りレーティング」と「売りレーティング」「買いレーティング」を繰り返していることです。

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。